

10月8日(土)～9日(日)、岡山県笠岡市六島に行ってきました。六島は岡山県の最南端にある、笠岡諸島の小さな島で、1月から2月にかけて咲き誇る水仙で知られています。戦後には1000人以上いたという島民の数は、現在42人、島内にあるお店は商店が1店ありましたが、島の人口減少で利用者が少なく、閉店となっていました。

宿は名前が気に入りの島小屋、登山は大石山(185m)でした。島へ行って「生きることの意味」ということを考えさせられました。島の人口は若者の人口流出で減少し、小学生は三年生1人、空き家率は78%とか。主産業は漁業ですが、漁獲高は激減、畑はわずかにサツマイモと野菜作り、それも5年前に本土からやって来たイノシシによって大半が被害にあいました。そんななか島の人や島小屋のママさんは明るく、六島の昨今を楽しそうに語ってくれます。「これから船で鯛釣りに…」と日焼けした漁師さん、「丘の畑にはオリーブを、これならイノシシは大丈夫だろう」と島小屋の主人、そして帰りのフェリーではたった一人の小学生がお母さんと笠岡へ買い物に、二人で語る笑顔が明日の六島を語っているようでした。浜にたくさん並んでいたタコツボにも素直にひた向きな希望がありました。この島の浜でも思わず一句が浮かんできました。「島の秋並ぶタコツボ明日を待つ」。



六島のメインストリート、すぐ横に島小屋がある



9日6時頃、香川県丸亀・讃岐富士方面から日が昇る

追記

島小屋は湛江(たたえ)地区の古民家を改装した、三宅千代美さんが運営するゲストハウスです。部屋は二部屋、1泊2食6700円ですが、自炊もでき厨房はオール電化完備で完備されています(当日は笠岡クーポン1人2000円が取れてラッキーでした)。また、島小屋は湛江地区の高齢者の憩いの場としても活用され、軽食・喫茶で島の新たな交流拠点となっています。

大石山(185m)は前浦港～六島灯台～大石山山頂～六島小学校～前浦港のゆっくり歩いて2時間30分。途中灯台付近までスイセン群の小道もあります。スイセンの季節は1～2月、厳冬期に香しい花をたくさん咲かせるようになったそうです。山頂からの眺望は良く広島県の福山港や香川県の丸亀方面も眺望できます。9日の早朝には六島の海岸で丸亀の讃岐富士からのご来光が楽しみました。